

本田望結さん「両方がんばる」  
幹線初の「重大インシデント」

### おいしい組み合わせ

のもとになる化学物質がたくさんある。例えばコーヒーには300種類もあり、こうした物質は、組み合わせると予想もしなかったにおいになり、いやなにおいが別のにおいになります。

科学未来館（東京都江東区）で「匂わずにいられない！」は、まなにおいに満ちています。シナモンとレモンとライムのかおりを混ぜると、不思議なことにコーラのにおいになる「イソ吉草酸」に、ふくまれバニラのかおりがする「バニリン」を加えると、チョコレート



▲古本からはバニラにおいがする。バニラにおい物質「バニリン」がふくまれている

## シナモン+レモン+ライムでコーラ？



## 平安貴族衣装で華やかに

世界文化遺産の下鴨神社（京都市左京区）で、平安時代に特に貴族の間で流行



▲2017年10月の日本GPのモト2予選でポールポジションを取った中上貴晶選手（AFP=時事）

# 週刊 ことモ日報

第361号

1月14日 日曜日

長野日報社ことモ日報編集部

〒392-8611 長野県諏訪市高島3丁目1323-1

TEL0266-58-2000 FAX0266-58-5385

Eメール hodo@nagano-np.co.jp

# オートバイレース世界最高峰に挑む

## モトGPに日本人選手4年ぶり参戦

「小さいころからの夢だった。世界最高峰のモトGPはきっと厳しい世界だけど、世界一になりたいし、できると思う」と話す中上貴晶選手。2017年10月10日、東京都港区



2017年8月のイギリスGPのモト2で優勝した中上貴晶選手（AFP=時事）



2017年8月のイギリスGPのモト2で優勝した中上貴晶選手（AFP=時事）

2017年10月の日本GPのモト2予選でポールポジションを取った中上貴晶選手（AFP=時事）

2017年10月14日、栃木県茂木町

強い日本人選手  
日本人選手が海外で活躍するスポーツはたくさんあります

が、ヨーロッパで人気のオートバイレースでも多くの日本人選手が昔から活躍し、1961年に高橋国光（たかはし・くにみ

選手が当時の西ドイツグランプリ（GP）の250ccクラスで初優勝。1990年代から2000年代にかけて多くの日本人選手が参戦し、現在とは異なるクラス

日本のホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーもさまざまなジャンルのレースで優勝マシンを作ってきました。また、アジアでは仕事用の乗り物として、よく使われていた。小型バイクは人気があり、ベトナムではバイクのことを「ホンダ」と呼ぶほどです。

現在の世界選手権は250ccのモト3、600ccのモト2、1000ccのモトGPに分かれ、中上選手はモト2での好成績が認められ、チームLCRホンダからモトGPに参戦します。出身国の総合王者や、軽量級クラスを制した速いライダーたちと最高速度350キロでバトルします。

## 中上貴晶選手、勝利へ闘志



（25）が参戦します。4歳からレースをやっている、世界一のライダーになるのが夢だった」と勝利に向けて闘志を燃やしています。

### ロードレース世界選手権のクラス分け



**モトGP**  
排気量（はいきりょう）1000cc、最高速度350キロ。メーカーが最初から作ったプロトタイプのマシンを使う。メーカーが運営する「ファクトリー」と呼ばれるチームが多く参戦。



**モト2**  
排気量600cc、最高速度290キロ。エンジンは同じメーカーのものをを使い、車体はいくつかのメーカーを使用。メーカーから独立したレーシングチームが参戦。



**モト3**  
排気量250cc、最高速度240キロ。ホンダやKTM（オーストリア）などのメーカーからマシンを買った独立したレーシングチームが多数参戦。

（写真はAFP=時事、EPA=時事）

### ロードレース世界選手権

メーカーが作り上げるプロトタイプマシンを使うモトGPクラスはマシンの値段は億単位とされ、メーカーの「ファクトリー」と呼ばれるチームが中心。ホンダ、ヤマハ、スズキの日本メーカーのほか、ドゥカティ（イタリア）、アプリリア（イタリア）、KTM（オーストリア）が参戦。モト2（600cc）やモト3（250cc）はメーカーからマシンや車体を買った独立チームが中心で、運営費用を抑えて新人の登竜門のクラスになっている。



国内販売は減少

オートバイの売れ行きの変化

しかし、日本国内での売れ行きは減っているのが現状です。日本自動車工業会によると、オートバイの国内の販売・出荷台数は1982年度の約329万台をピークに、1996年度に約125万台、2006年度は約72万台、2016年度は約37万台に落ちています。理由には人口減少や若者がオートバイに乗らなくなったことなどが考えられますが、中高年の人が再び乗りだしたり、軽量級スポーツモデルの人気の高まりなど、復活のききもありません。

## タージマハル廟



タージマハル廟は、17世紀にインドを支配していたムガル帝国第5代皇帝の妻をまつる宗教施設です。インド北部のアグラにあり、イスラム建築を代表する建造物として1983年に世界文化遺産に登録されています。

廟は妻の死の翌年にあたる1632年に建造が始まり、約20



混雑などが問題となっている世界文化遺産「タージマハル廟」=1月3日、インド北部アグラ（AFP=時事）

年後に完成しました。南北560メートル、東西303メートルの敷地に、白大理石で造られた高さ